

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第3部課程 116期）

岩手県 総務部総務室 小林 英世

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

自治大学校から職場に戻り3週間程度が経ちました。研修期間中には令和8年熊本地震が発生し、自治大で共に学んだ方々の中にも被災された方がおられました。改めて被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を願っています。

2 私が第3部課程を受講した経緯

入庁して24年目。これまで例規審査、人事、給与などの内部向けの業務経験が長くなり、その他の分野の経験や知識がないことに漠然とした不安を感じていました。そんな中、大変ありがたいことに、所属を通じて「自治大第3部課程に行ってみないか」というお話をいただきました。幅広い講義内容を見るに、これまで経験してこなかった分野の視野を広げることができるのではないかと感じましたし、県外での長期研修の機会なんて最後かもしれないと思い、すぐに家族の了解を得て、二つ返事で受講することになりました。

3 第116期のはじまり

7月7日から31日までの日程で始まった第3部課程第116期は、全国津々浦々から個性豊かな83名の方々が集いました。私のような事務系だけでなく技術系の方も多く、府県、政令市・中核市、町村など自治体規模もさまざまです。また、首長・

副首長との距離感も自治体によって違い、比較的規模が大きい自治体の方でも市長から日常的に直接業務指示があるとか、自治大の受講を副市長から打診されたという方もいて、県組織とは異なる仕事の進め方もあるというのが印象深い点でした。

第3部課程は、約1か月という日程の中に、公共政策科目や自治体を巡る最新の政策課題などについての講義のほか、各自が持ち寄った事例を基に学びを深める「事例演習」と、今後必要な政策を提言する「特定課題演習」が組み込まれています。

講義のジャンルは幅広く、行政全般に関わる人事、マネジメント、財政、防災などのほかに、都市計画、福祉政策など特定分野のものもあり、現在の業務と直接かわりのない科目も当然あります。しかし、自治体幹部として首長との距離が近づくにつれ（もうすでにそのような距離感で仕事をされている方もいるかもしれませんが）、自らの担当業務だけでなく、首長が興味を持つであろう政策全般の幅広い見識が必要になってきます。そこで、行政全般の最新の動向等を第一線の方々からたっぷり聞くことができる機会は、この自治大学校のほかにはないのではないかと思います。受講の機会があればぜひ前向きに検討することをおすすめします。

また、研修後半の事例演習・特定課題演習では、少人数のグループに分かれて、各自治体の問題や各自が整理した政策課題を基にレポートをまとめ、プレゼンテーションするというアウトプットがメイン

となります。どのような課題を設定するかは各自の興味・関心があらわれる部分です。事前に粗方作成してきたという方もいる中で、私の場合は授業で学んだ内容や各自治体のお話を聞いたことも踏まえてテーマを変更した結果、自習時間だけではレポートを作成しきれず、仕上がりには苦労した部分もありましたが、発表やグループ討議では、さまざまな現場を持つ方々の考え方の違いやリアルな事例を聞くことができ、とても刺激を受けました。

研修全体として、人口減少社会を所与の前提として、今後、自治体としてどうしていくかというテーマが通底しており、AI活用・DX推進、県と市町村の関係、今後の地方自治制度のあり方など、自らの知識のアップデートとともに、自治体に戻った後は、各分野に通じた職員とのつながりづくりが一層必要だと感じました。

4 入校前のアクシデントと入校後の生活

入校準備を始めていた6月下旬、人生で初めて、経験したことのない足の痛みで病院を受診し、結果、医師から飲酒をセーブするよう痛恨の指示を受けました。

まだ痛みが残る中、入寮の日を迎え、わが身の不幸と不安を抱えての自治大生活の始まりとなりましたが、私が所属した麗澤寮3階フロアは、アルコールが苦手という方も何人もおり、各自のペースで参加することができる雰囲気を作っていました。談話室では、地域から持ち寄った産品を堪能しながら、日々の業務の悩みや各自治体の状況、レポートの進み具合など、さまざまな話が飛び交い、交流を深めることができました。

週末には、数少ない休みを惜しむかのように、高尾山登山、鎌倉旅行など独自の



3階談話室での最後の夜

行事が多数企画され、一人だったら絶対にできないような楽しい時間を持つことができました。また、東北の会、都道府県の集まり、〇〇県人会など、色々な組合せによる交流が随所で行われ、飽きることのない、あっという間の1か月間でした。

第3部課程は出身団体に戻れば立場のある方々ばかりですが、その立場から一旦離れ、フラットな関係で交流を深める機会は大変貴重です。私自身、この年齢で見知らぬ土地で単身生活し、学び、新たな関係を築き、全国の多くの仲間を得る経験ができたことは、これからの仕事や人生を前向きに考える契機になったと感じます。

5 おわりに

第3部課程は打診を受けて派遣される方が多いと思いますが、思い切って受講してみたいでしょうか。仕事・家庭の心配はあるでしょうが、何よりも、全国に同じような悩みを抱え、地域を良くしたいと思っている仲間が増えることは、不確実な時代を乗り越えていく上で、きっと確かな心の支えになってくれるに違いありません。

最後に、第116期の同期の仲間、快く送り出してくれた職場の皆さん、応援してくれた家族、研修環境を整えていただいた自治大学校事務局の皆さんに改めて感謝申し上げます。